

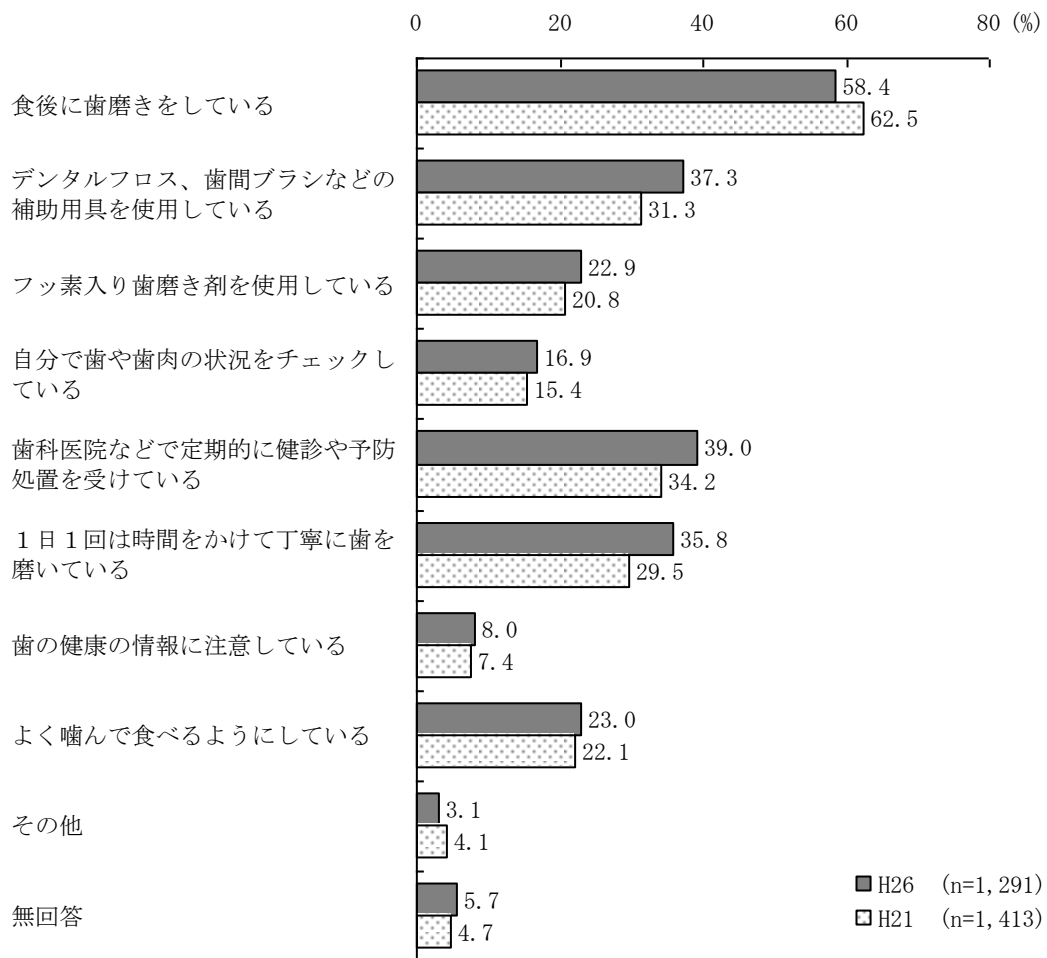
5. 健康管理状況について

(1) 歯の健康維持

—約6割の人が、「食後の歯磨き」を実践している—

問27 あなたが歯の健康維持のために実践していることは、次のうちどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

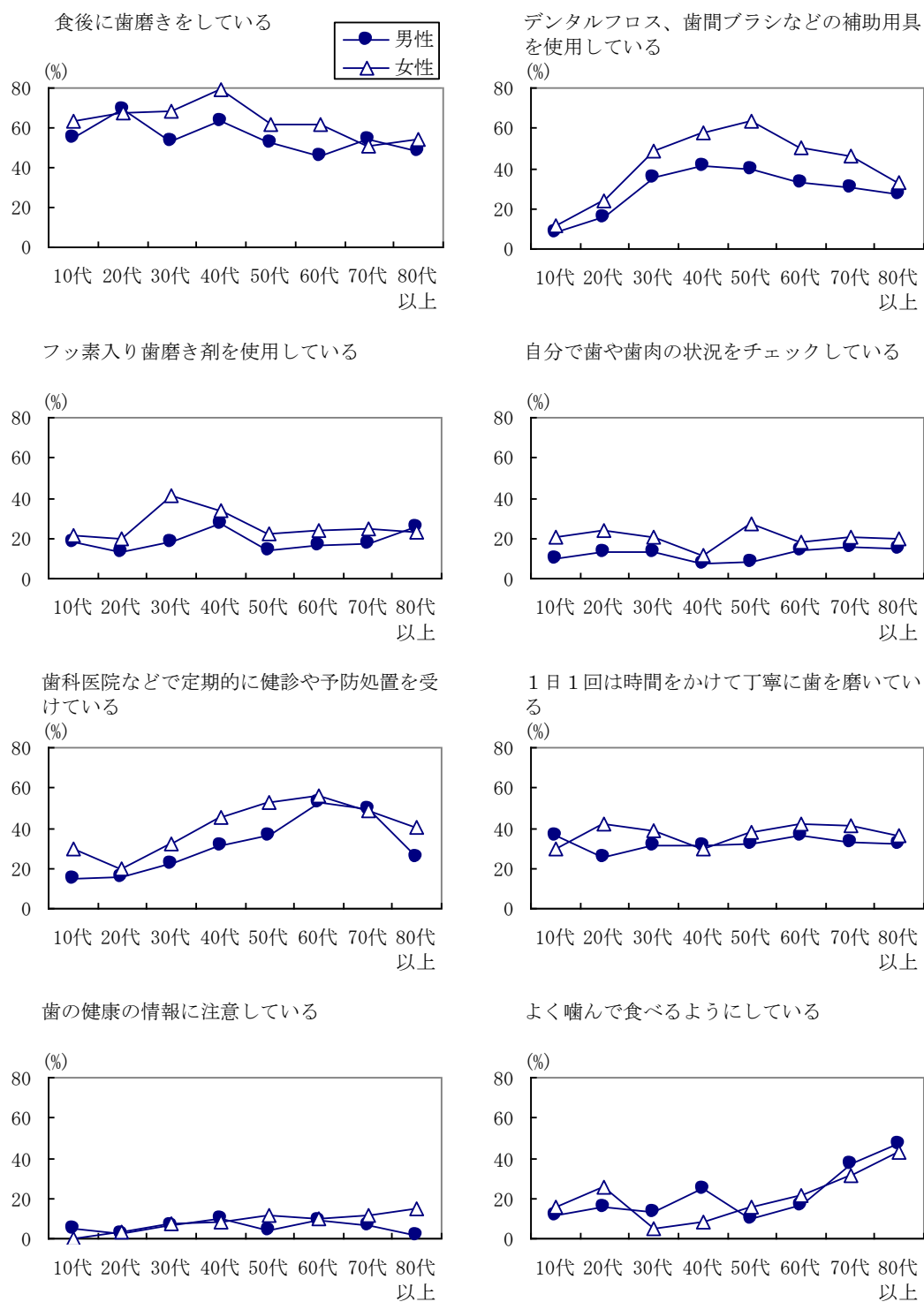
図 5-1 歯の健康維持



歯の健康維持のために実践していることを聞いたところ、「食後に歯磨きをしている」(58.4%)が最も高く、次いで「歯科医院などで定期的に健診や予防処置を受けている」(39.0%)、「デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助用具を使用している」(37.3%)、「1日1回は時間をかけて丁寧に歯を磨いている」(35.8%)の順となった。経年でみると、前回調査と同様に「食後に歯磨きをしている」が最も高くなっているが、その比率は下がっている。また、「歯科医院などで定期的に健診や予防処置を受けている」「デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助用具を使用している」「1日1回は時間をかけて丁寧に歯を磨いている」など、多くの項目で前回調査よりも比率が高くなっている(図5-1)。

性別・年代別にみると、「食後に歯磨きをしている」は、70代を除いて女性の方が男性より比率が高く、「デンタルフロス、歯間ブラシなどの補助用具を使用している」は、どの年代でも女性の方が男性より比率が高くなっている（図5-2）。

図5-2 歯の健康維持（性別・年代別）

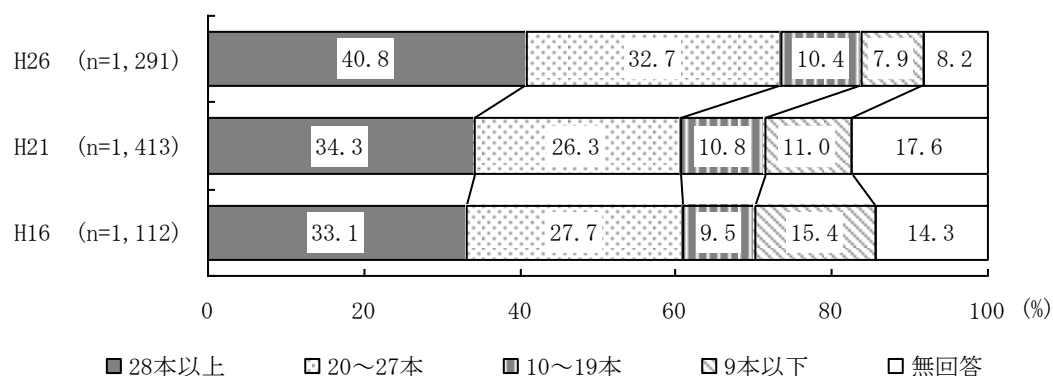


(2) 歯の本数

—80 歳以上で 20 本以上歯を有する人は、40%に達している—

問 2 8 あなたの歯*は何本ありますか。

図 5-3 歯の本数



*「あなたの歯」には、親知らず、入れ歯、ブリッジ、インプラントは含みません。さし歯は含みます。親知らずを除くと全部で28本が正常ですが、28本より多かったり少なかったりすることもあります。

歯の本数を記入してもらったところ、「28 本以上」(40.8%) が最も高く、次いで「20~27 本」(32.7%)、「10~19 本」(10.4%)、「9 本以下」(7.9%) の順であった。経年でみると、「28 本以上」と「20~27 本」の比率が前回調査よりも高くなっている(図 5-3)。

年代別にみると、50 代から「28 本以上」と回答した比率が低くなり始めており、「10~19 本」や「9 本以下」の比率が高くなっていく傾向がみられる(図 5-4)。

80 歳以上の歯の本数を性別でみると、男性、女性ともに「9 本以下」の比率が減って、「10~19 本」や「20~27 本」といった自分の歯を多く有する人が増えている(図 5-5)。

図 5-4 歯の本数(年代別)

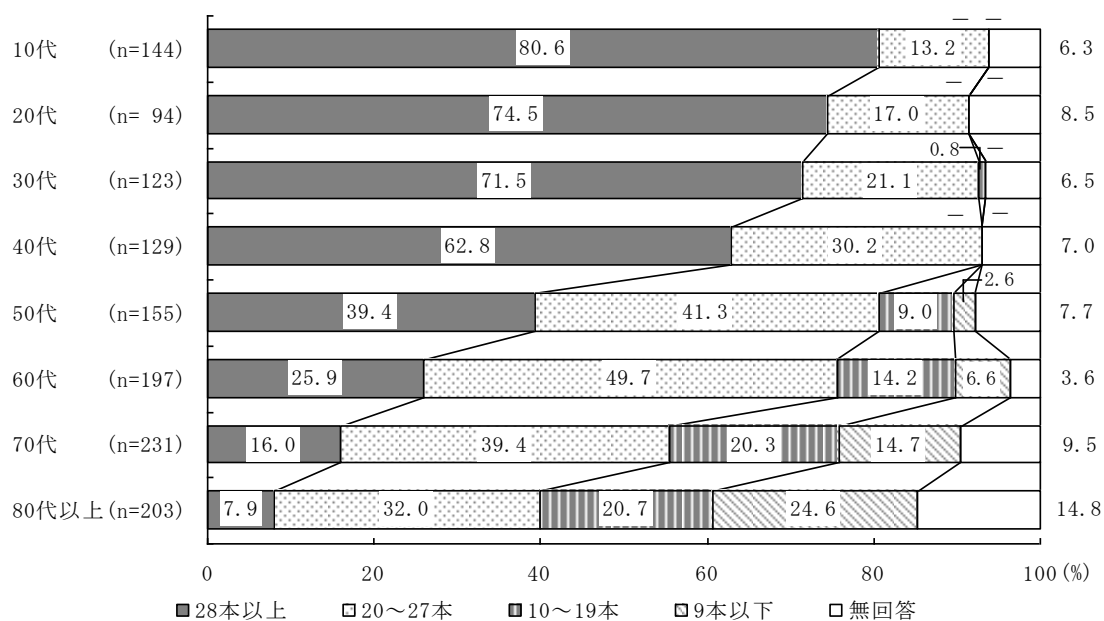
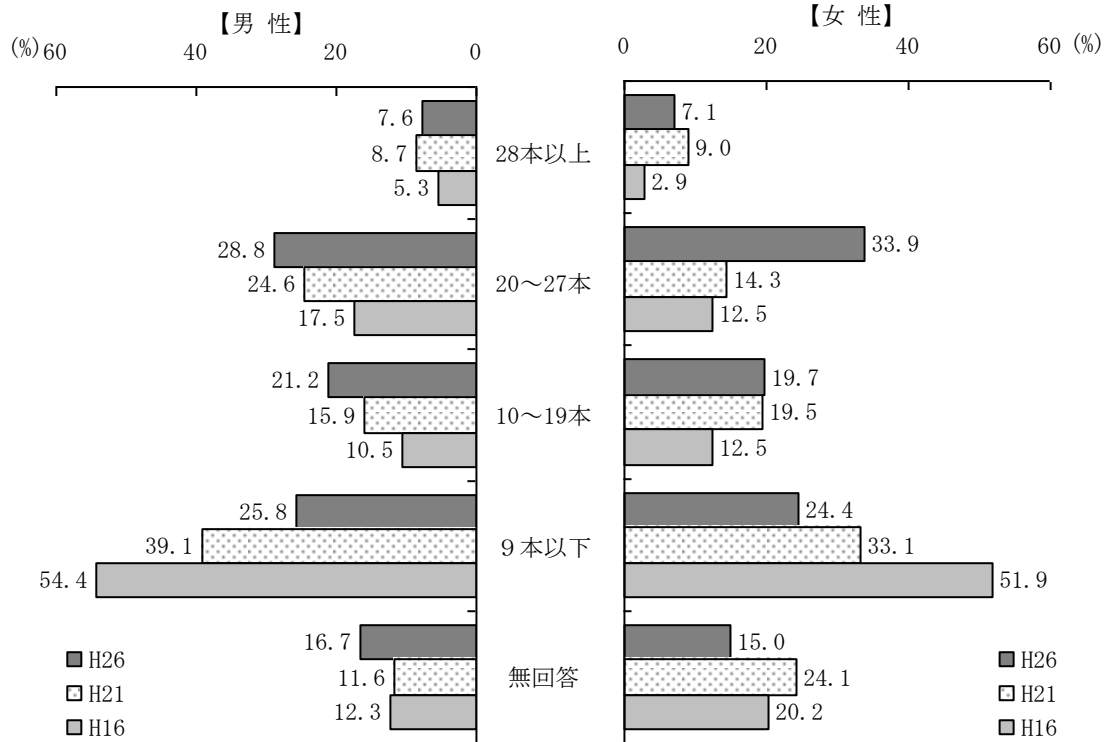


図 5-5 80 歳以上の歯の本数（性別）



『健康めぐろ 21』の「4-2-1 80 歳で 20 本以上自分の歯を有する人を増やす」の平成 27 年度目標値は 80 歳以上で 30%以上となっているが、現状では 39.9%で目標値を上回っている。前回調査（27.0%）と比べると、12.9 ポイントと大幅に増えている（表 5-1）。

表 5-1 「健康めぐろ 21」目標値との比較（4-2-1）

健康めぐろ 2 1 行動目標			調査結果等				平成 27 年度 目標値
			計画 策定時 の状況	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年 (今回)	
4-2-1	80 歳で 20 本以上自分の歯を 有する人を増やす	70 歳以上 (参考)	-	29.3%	35.4%	48.2%	-
		80 歳以上	27.0% (※)	18.1%	27.0%	39.9%	30%以上

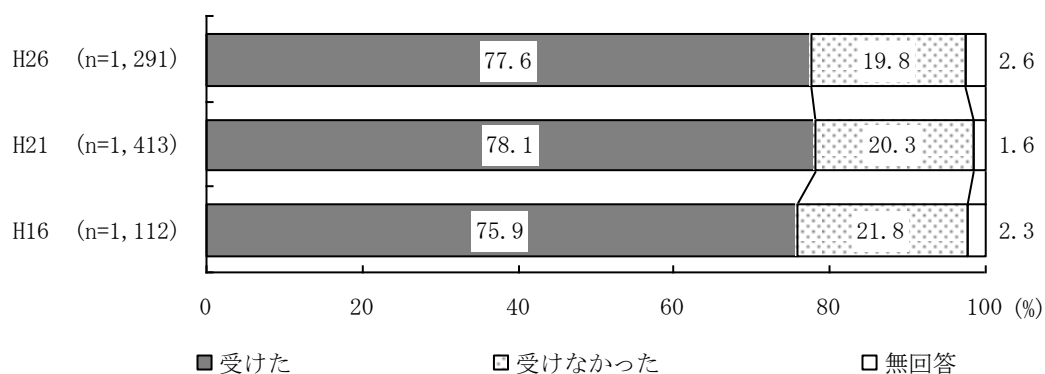
※ 東京都 H11 歯科診療所患者調査

(3) 健康診断

－ 8 割近くの人が、健康診断を受けている－

問 2 9 (1) あなたは 1 年以内に、健康診断を受けましたか。

図 5-6 健康診断



1 年以内に健康診断を受けたか聞いたところ、「受けた」と回答した比率は 77.6%であった。経年でみると、前回調査よりも「受けた」の比率がわずかに低くなっている（図 5-6）。

年代別にみると、30 代で「受けた」と回答した比率が、他の年代と比べてかなり低くなっている（図 5-7）。

加入健康保険別にみると、基数が少ないものを除くと、健康保険組合、共済組合、後期高齢者医療保険に加入している人で、8 割以上が「受けた」と回答している（図 5-8）。

『健康めぐろ 21』の「2-1-1 健康診断受診者を増やす」の平成 27 年度目標値は 80%以上となっているが、現状では 77.6%となり、前回調査より低くなっている（表 5-2）。

表 5-2 「健康めぐろ 21」目標値との比較（2-1-1）

健康めぐろ 21 行動目標			調査結果等				平成 27 年度 目標値
			計画 策定時 の状況	平成 16 年	平成 21 年	平成 26 年 (今回)	
2-1-1	【重点】 健康診断受診者を 増やす	全体 (10 代含む)	－	75.9%	78.1%	77.6%	80%以上
		20 歳以上 (参考)	68.6% (※1)	74.9%	77.5%	76.4%	－

※1 H11 目黒区健康づくり調査

図 5-7 健康診断（年代別）

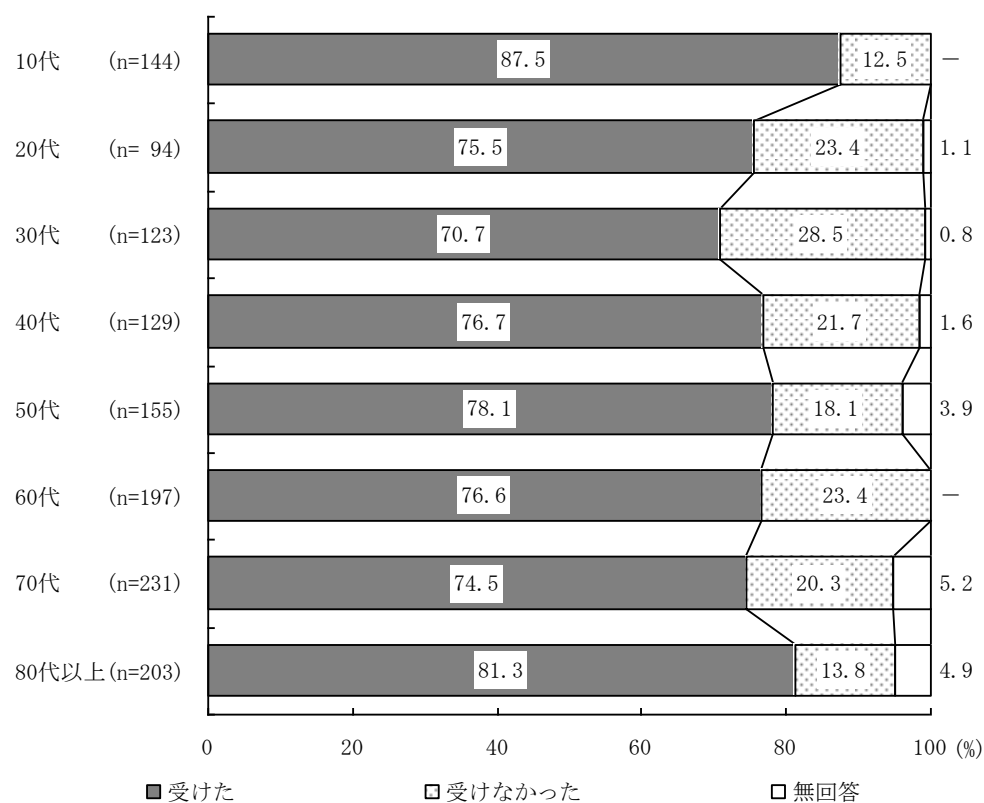
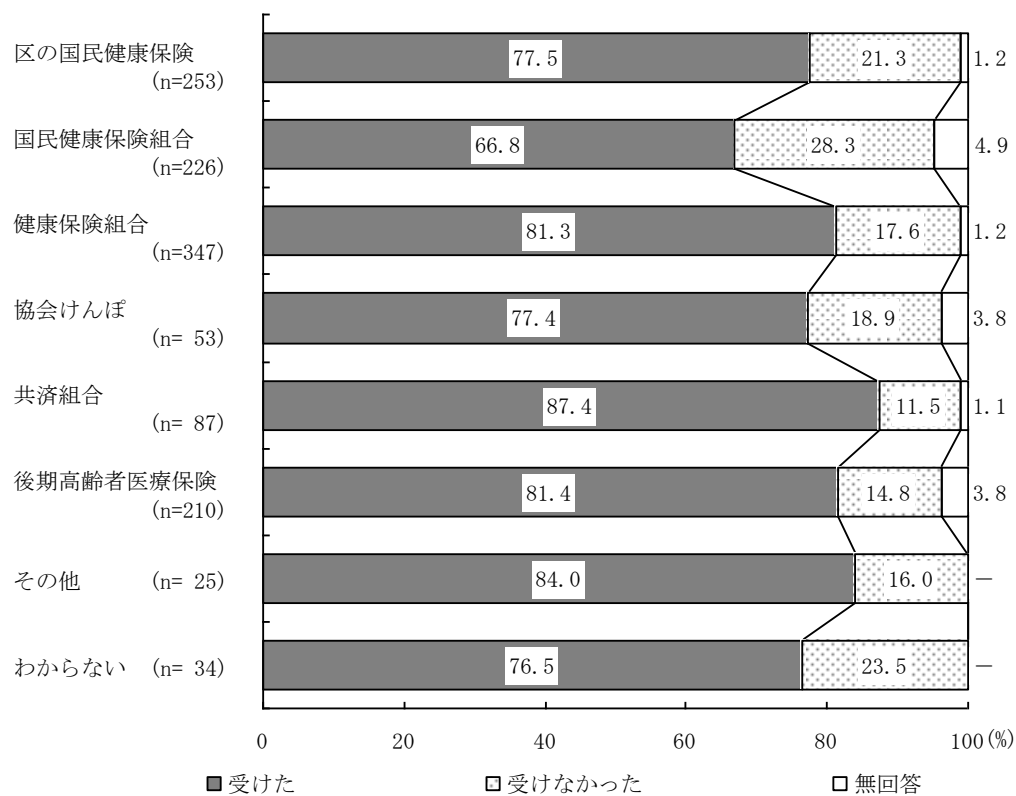
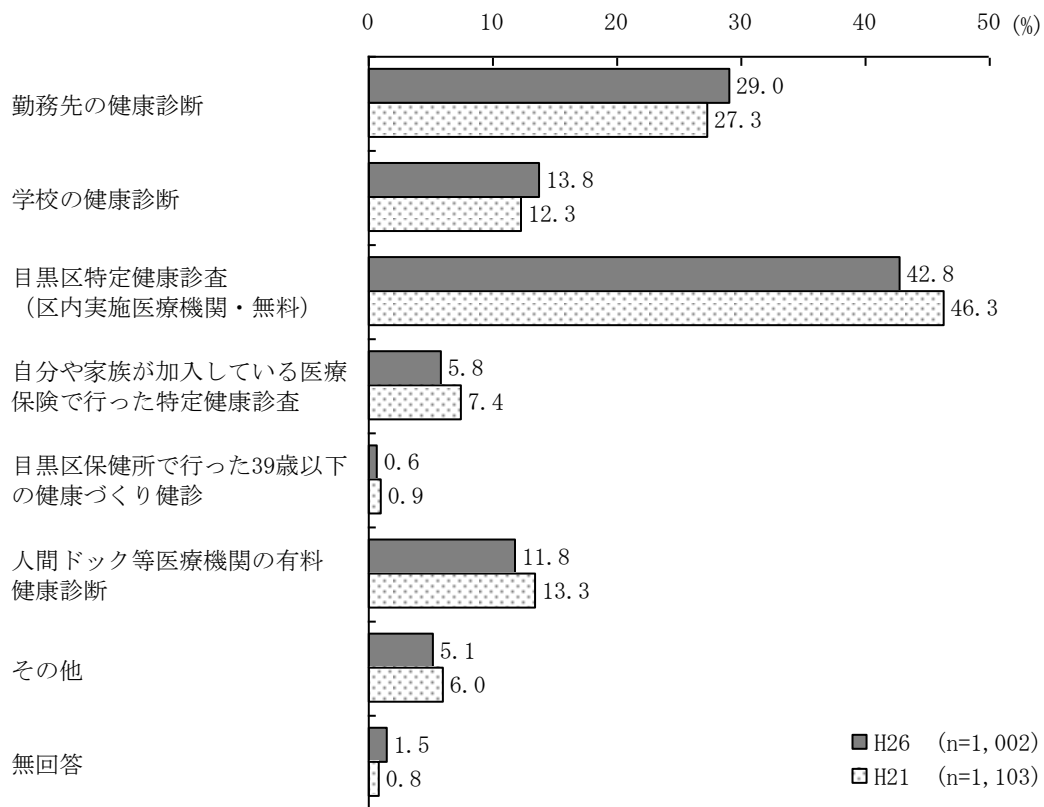


図 5-8 健康診断（加入健康保険別）



問 2 9 （ 2 ） （ 1 ） で①と答えたかたにお尋ねします。どのような健康診断を受けましたか。（当てはまるものすべてに○）

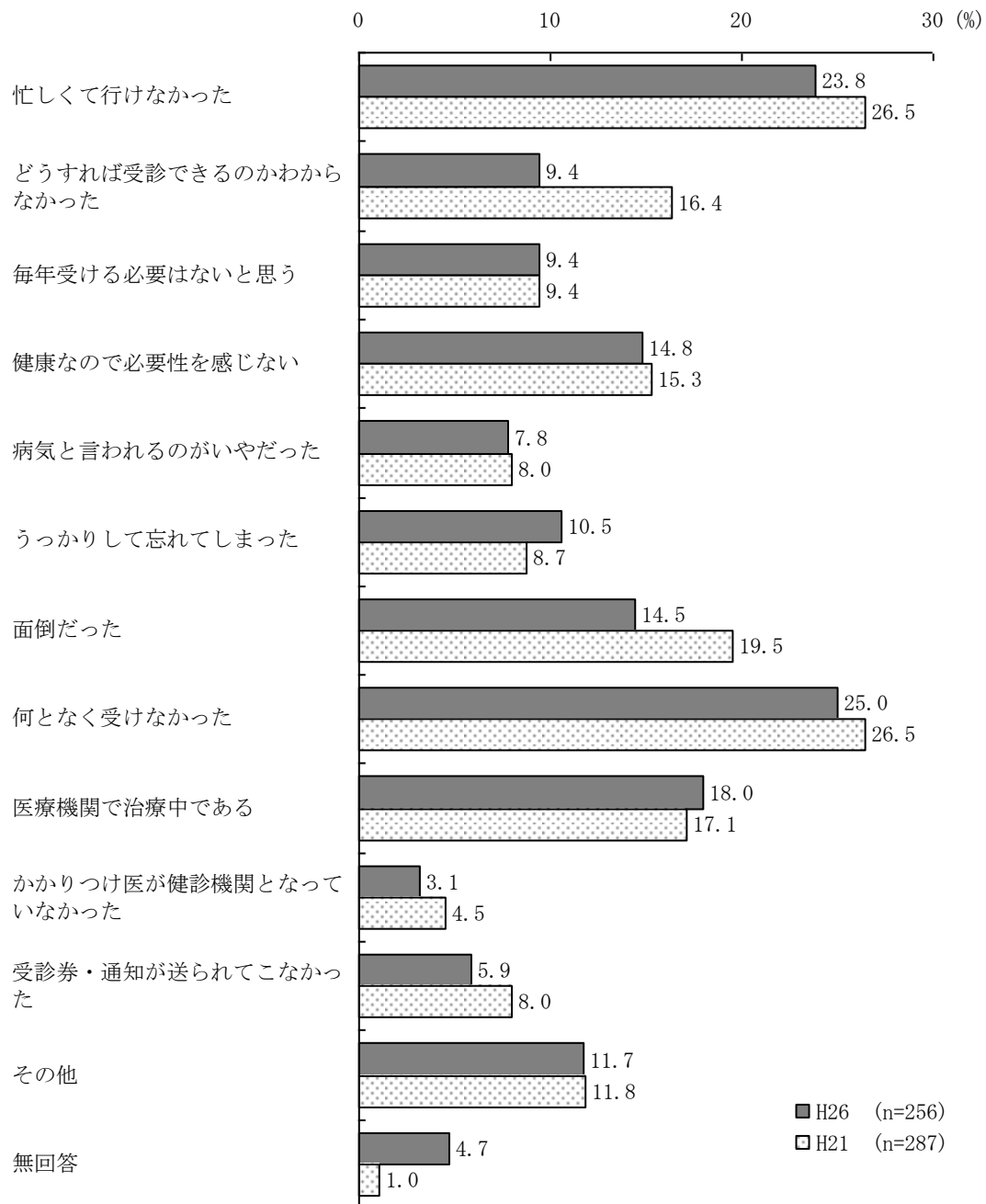
図 5-9 健康診断の形態



問 29 (1) で「受けた」と回答した人に、どのような健康診断を受けたか聞いたところ、「目黒区特定健康診査（区内実施医療機関・無料）」（42.8%）が最も高く、次いで「勤務先の健康診断」（29.0%）であった。（図 5-9）。

問 29 (3) (1) で②と答えたかたにお尋ねします。健康診断を受けなかった理由は、次の何ですか。(当てはまるものすべてに○)

図 5-10 未受診理由



問 29 (1) で「受けなかった」と回答した人に、健康診断を受けなかった理由を聞いたところ、「何となく受けなかった」(25.0%)、「忙しくて行けなかった」(23.8%) への回答が多く、次いで「医療機関で治療中である」(18.0%)、「健康なので必要性を感じない」(14.8%)、「面

倒だった」(14.5%)の順であった。経年でみると、前回調査と同じ様な回答結果であるが、「どうすれば受診できるのかわからなかった」の比率は大幅に低下している(図5-10)。

性別でみると、男性、女性ともに「何となく受けなかった」の比率が最も高く、次いで「忙しくて行けなかった」となっている。また、男性では「健康なので必要性を感じない」と「病気と言われるのがいやだった」の比率が、女性に比べて高くなっている(図5-11)。

年代別にみると、40代と50代では「忙しくて行けなかった」の比率が4割前後で高くなっている。また、20代や30代では「どうすれば受診できるのかわからなかった」の比率が高くなっている(図5-12)。

性別・年代別にみると、男性、女性ともに20代から50代では、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている(図5-13、図5-14)。

加入健康保険別にみると、基数が少ないものを除くと、国民健康保険、健康保険組合に加入している人では、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている(図5-15)。

図5-11 未受診理由(性別)

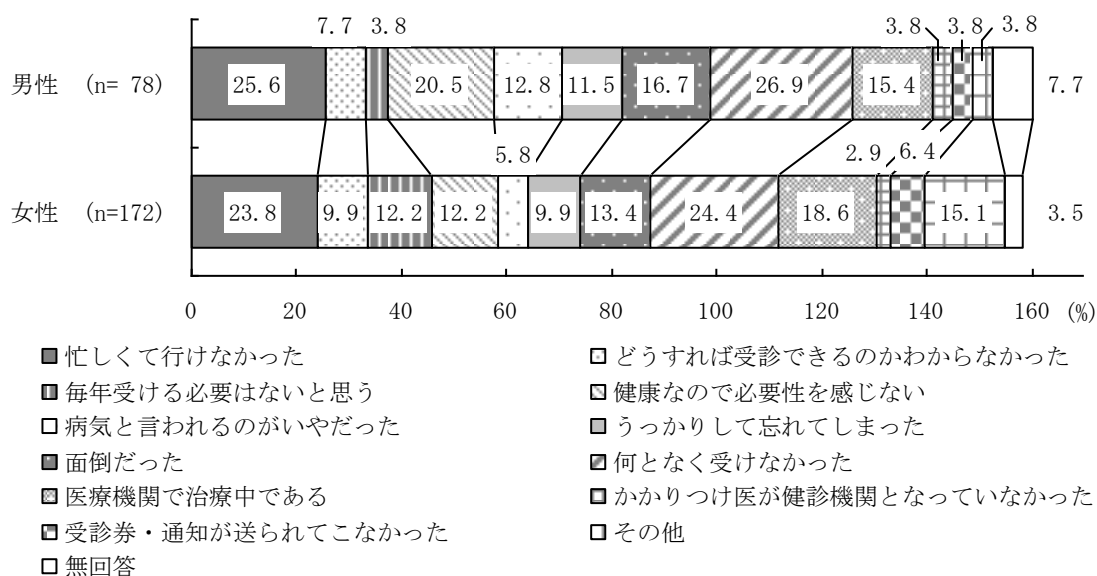


図 5-12 未受診理由（年代別）

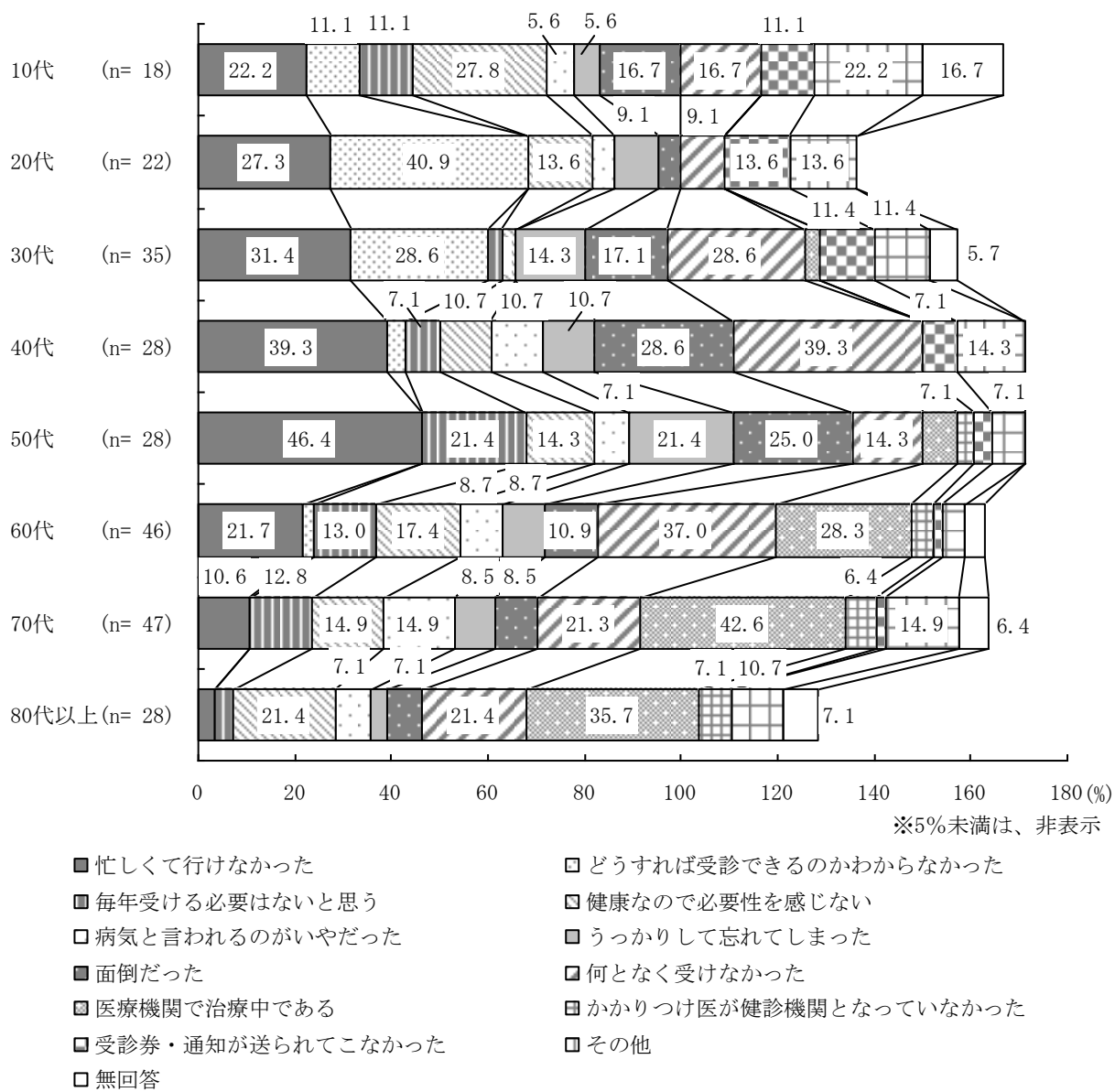


図 5-13 未受診理由（男性・年代別）

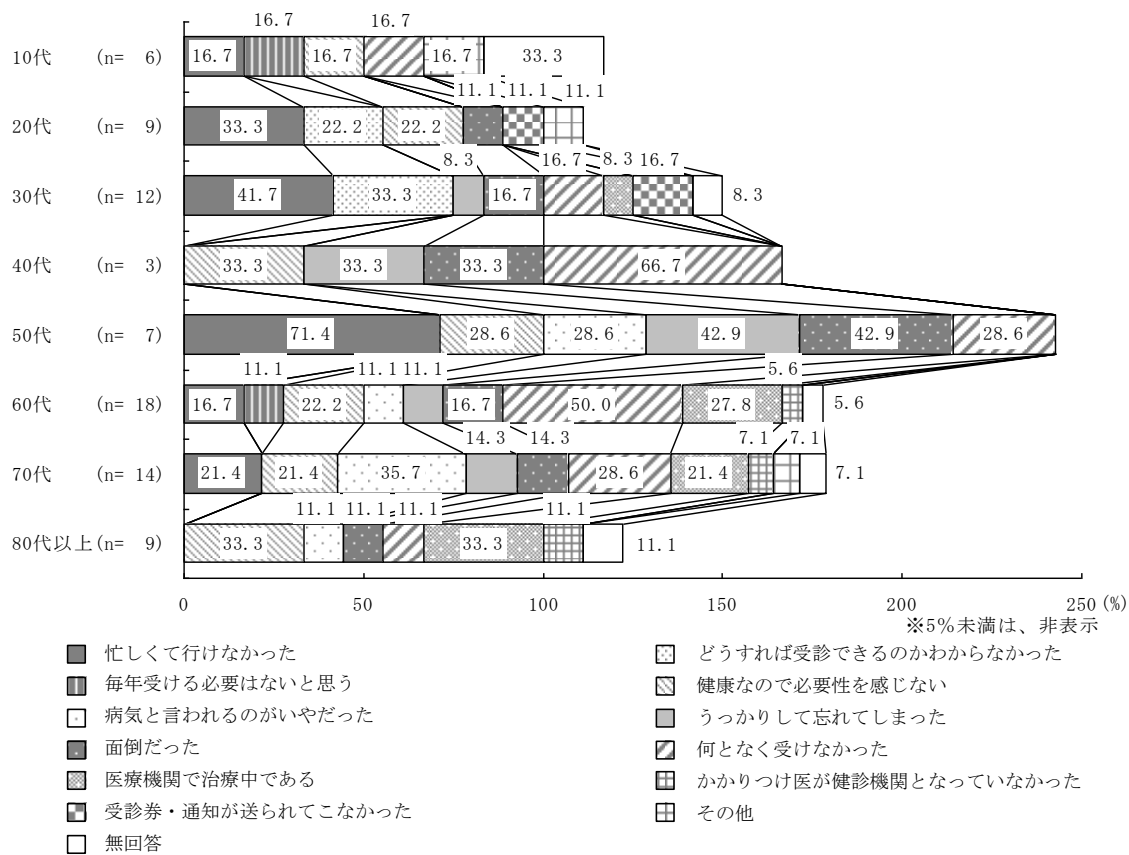


図 5-14 未受診理由（女性・年代別）

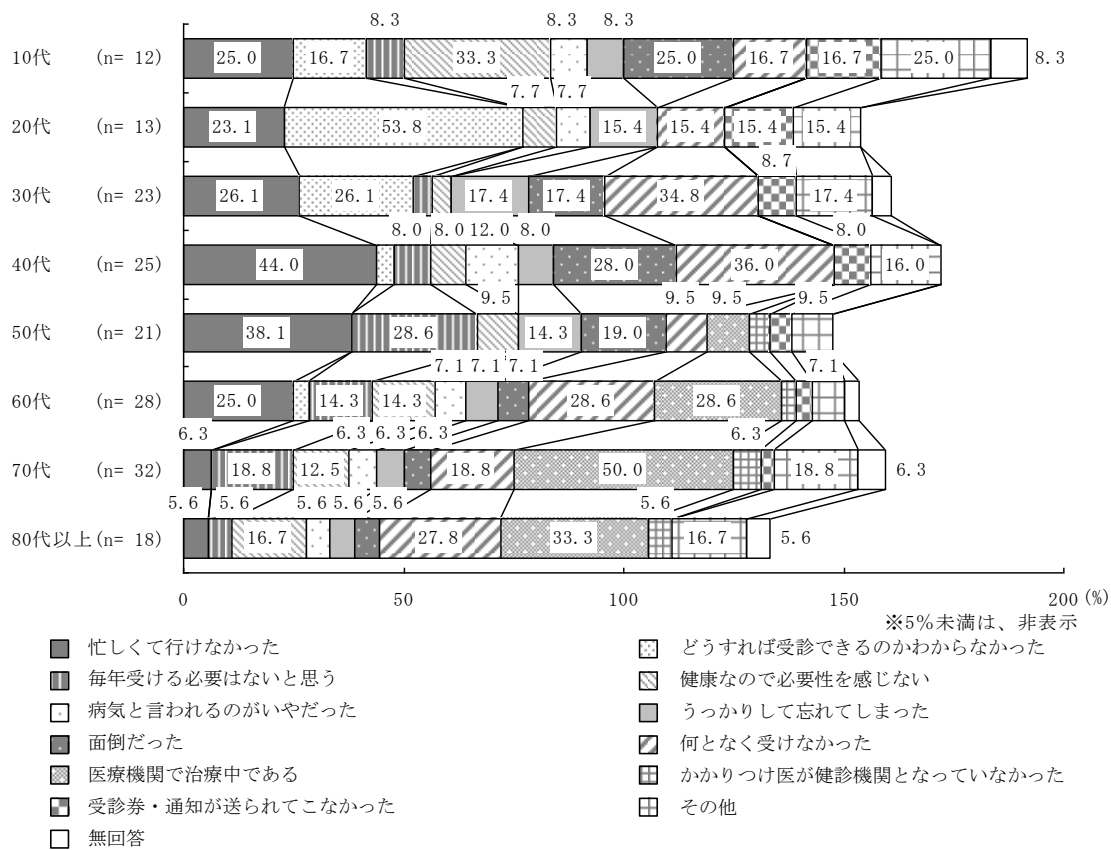
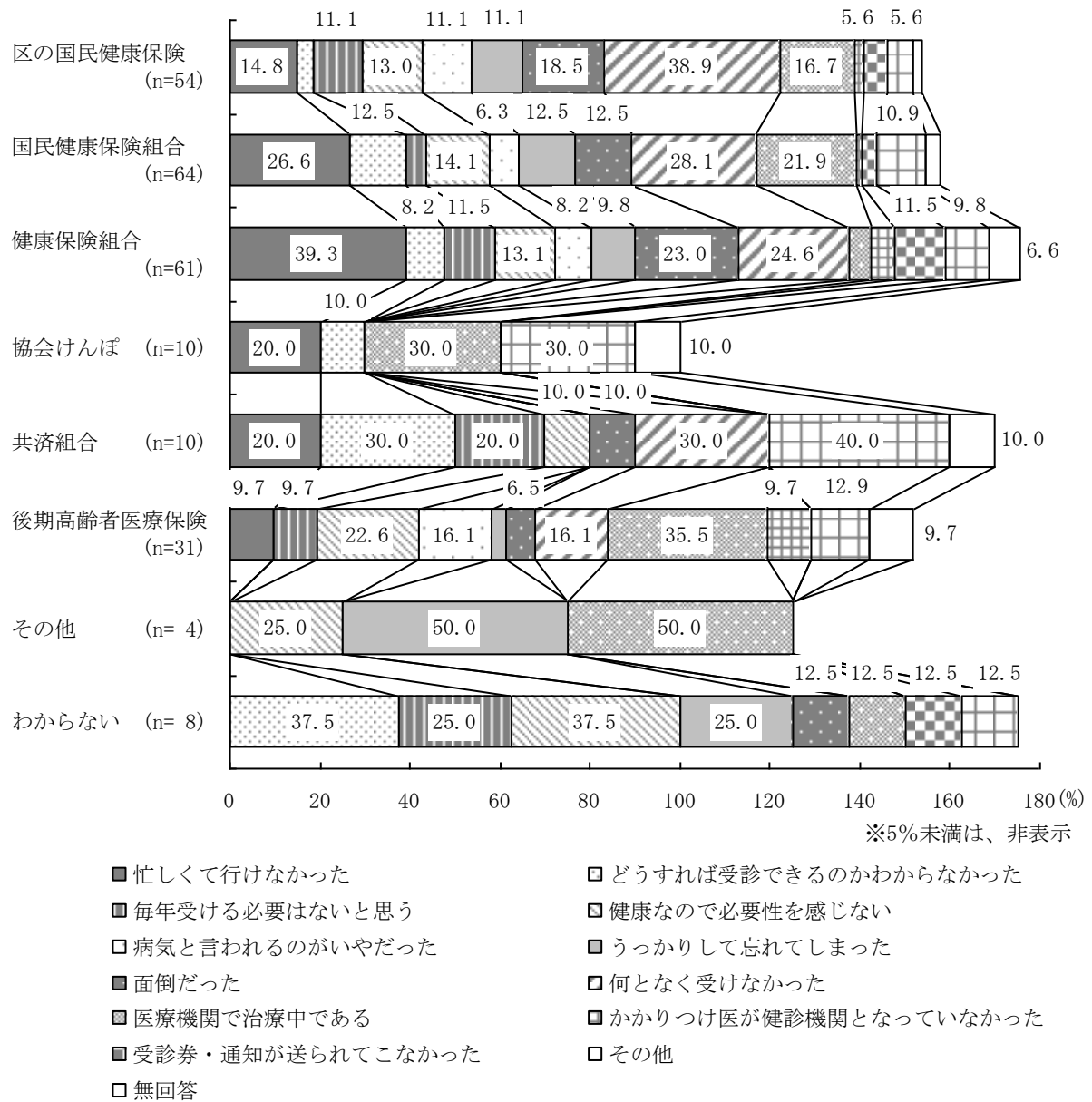


図 5-15 未受診理由（加入健康保険別）

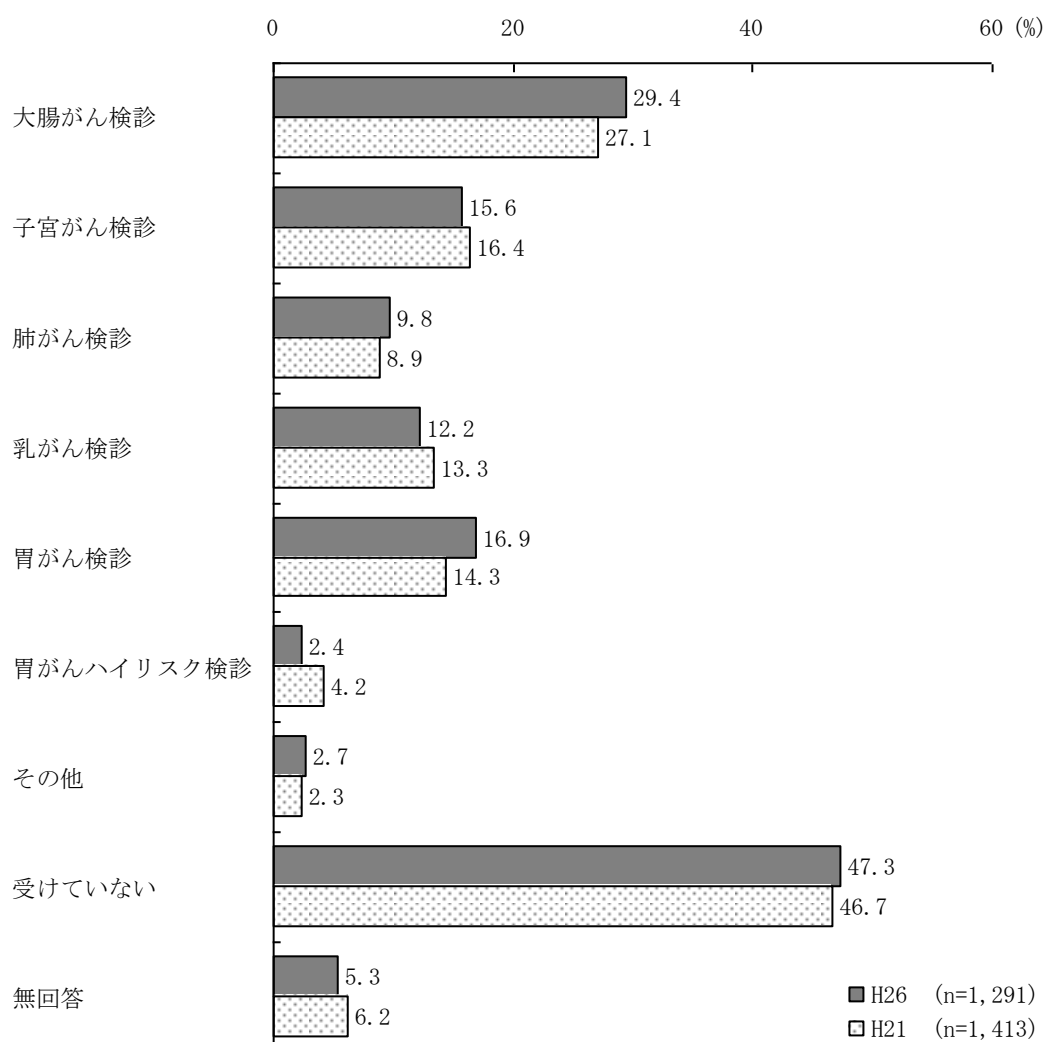


(4) がん検診

—がん検診を受診した人の5割は、「目黒区のがん検診」を利用している—

問30 (1) あなたが1年以内に受診したがん検診は、次のうちどれですか。
(当てはまるものすべてに○)

図 5-16 がん検診

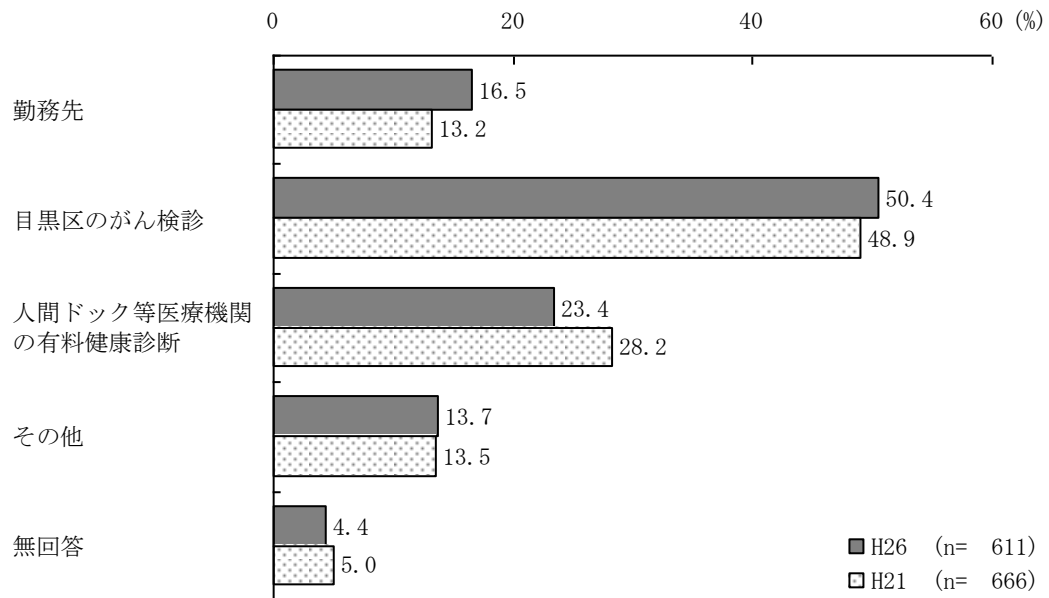


1年以内に受診したがん検診を聞いたところ、「大腸がん検診」(29.4%)が最も高く、次いで「胃がん検診」(16.9%)、「子宮がん検診」(15.6%)が続いている。前回調査と比較すると、「大腸がん検診」や「胃がん検診」の比率が上がっている。胃がんハイリスク検診については、平成25年度は40歳の者と、45・50・55・60・65・70・74歳の未受診者に対象者を限定している(図5-16)。

問 3 0 (2) (1) で①～⑦と答えたかたにお尋ねします。

それはどこで受けましたか。(当てはまるものすべてに○)

図 5-17 がん検診の受診場所

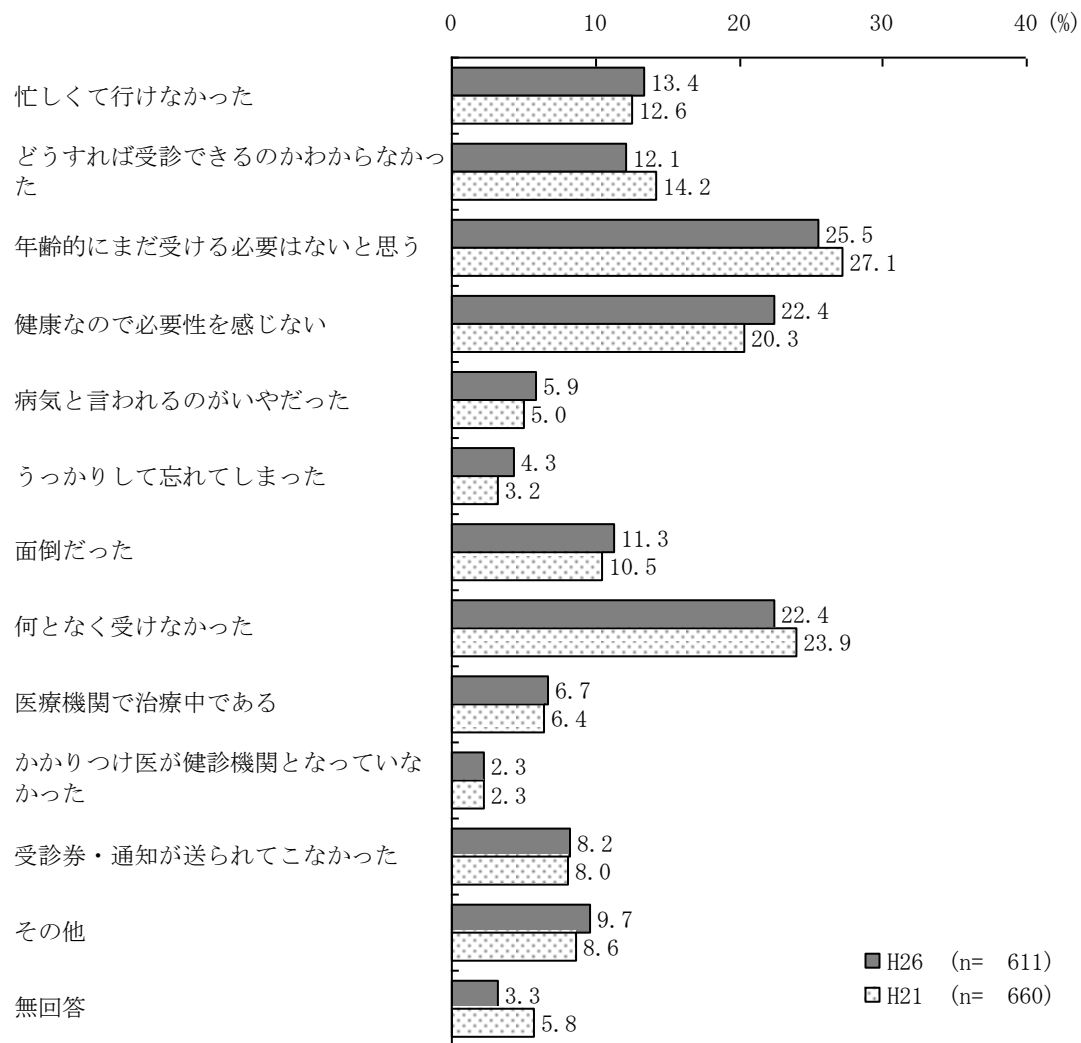


問 30 (1) でいずれかのがん検診を受診したと回答した人に、どこで受けたかを聞いたところ、「目黒区のがん検診」(50.4%)が最も高く、次いで「人間ドック等医療機関の有料健康診断」(23.4%)であった。前回調査と比較すると、「目黒区のがん検診」の比率が若干高くなっており、「人間ドック等医療機関の有料健康診断」は比率が下がっている(図 5-17)。

問30(3) (1)で⑧と答えたかたにお尋ねします。

受診しなかった理由は、次の何ですか。(当てはまるものすべてに○)

図 5-18 がん検診未受診理由



問30(1)で「受けていない」と回答した人に、受診しなかった理由を聞いたところ、「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」(25.5%)が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じない」(22.4%)、「何となく受けなかった」(22.4%)が続いている。過去調査と比較すると、「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率が減少して、「健康なので必要性を感じない」が増加している(図5-18)。

性別でみると、男性、女性ともに「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」が高くなっている。また、男性では「健康なので必要性を感じない」の比率も高くなっている(図5-19)。

年代別にみると、10代から30代では「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率が他の年代に比べて高くなっている。また、30代から50代にかけて「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている（図5-20）。

性別・年代別にみると、男性では50代、女性では20代から50代において、「忙しくて行けなかった」の比率が高くなっている（図5-21、図5-22）。

加入健康保険別にみると、基数が少ないものを除くと、健康保険組合、協会けんぽ、共済組合に加入している人では、「年齢的にまだ受ける必要はないと思う」の比率が高くなっている（図5-23）。

目黒区のがん検診は、40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）を対象としているので、40歳以上の受診しなかった理由をみると、「何となく受けなかった」（29.7%）が最も高く、次いで「健康なので必要性を感じない」（24.9%）であった（図5-24）。

図5-19 がん検診未受診理由（性別）

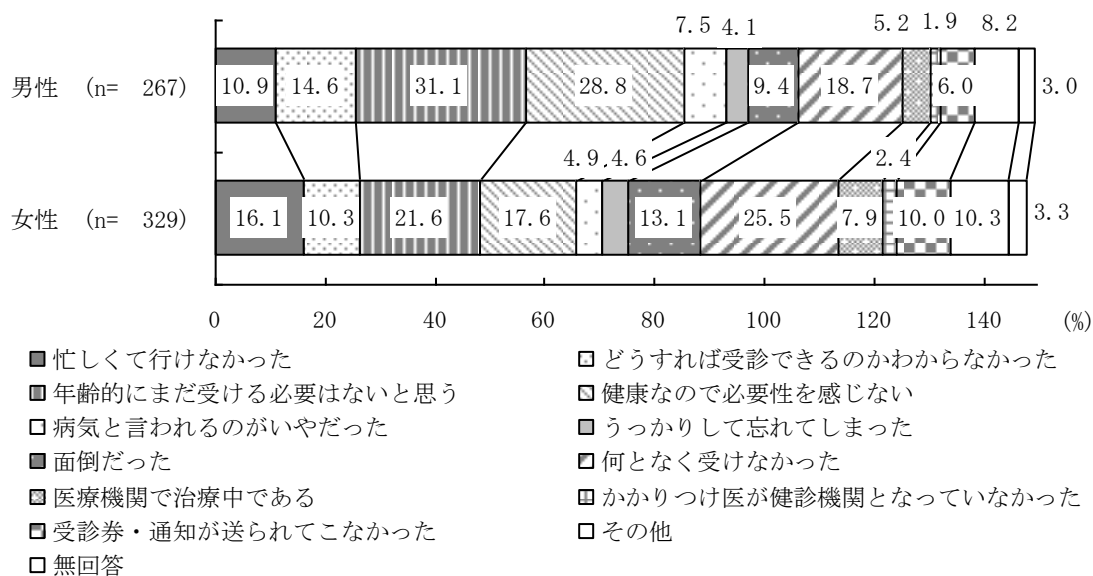
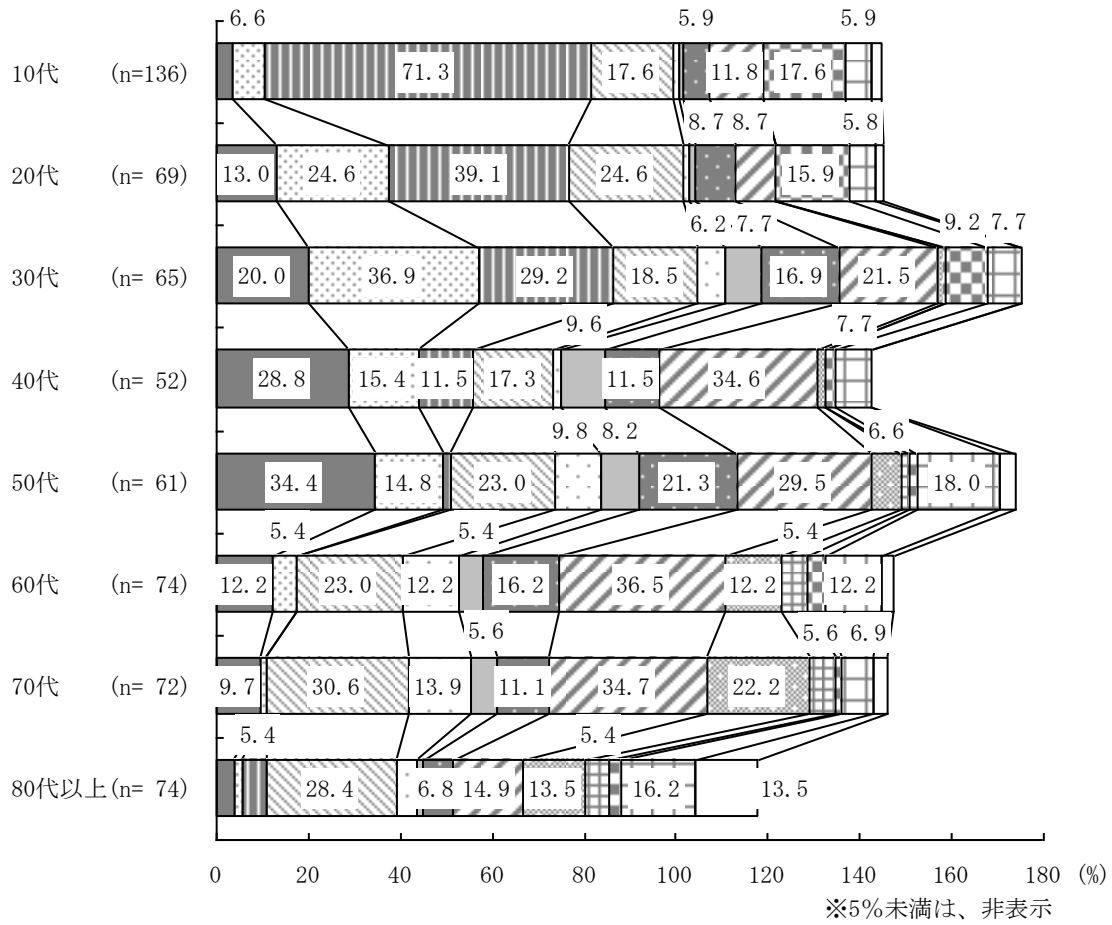


図 5-20 がん検診未受診理由（年代別）



- 忙しくて行けなかった
- 年齢的にまだ受ける必要はないと思う
- 病気と言われるのがいやだった
- 面倒だった
- 医療機関で治療中である
- 受診券・通知が送られてこなかった
- 無回答
- どうすれば受診できるのかわからなかった
- 健康なので必要性を感じない
- うっかりして忘れてしまった
- なんとなく受けなかった
- かかりつけ医が健診機関となっていなかった
- その他

図 5-21 がん検診未受診理由（男性・年代別）

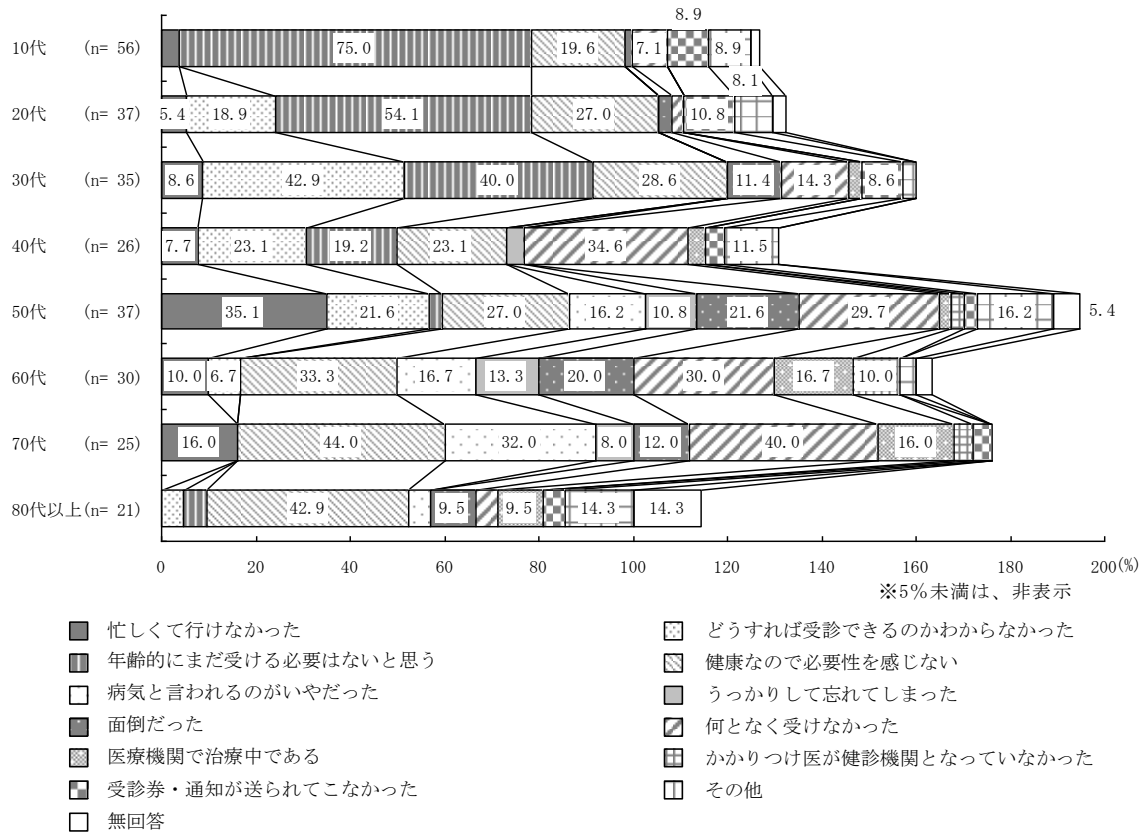


図 5-22 がん検診未受診理由（女性・年代別）

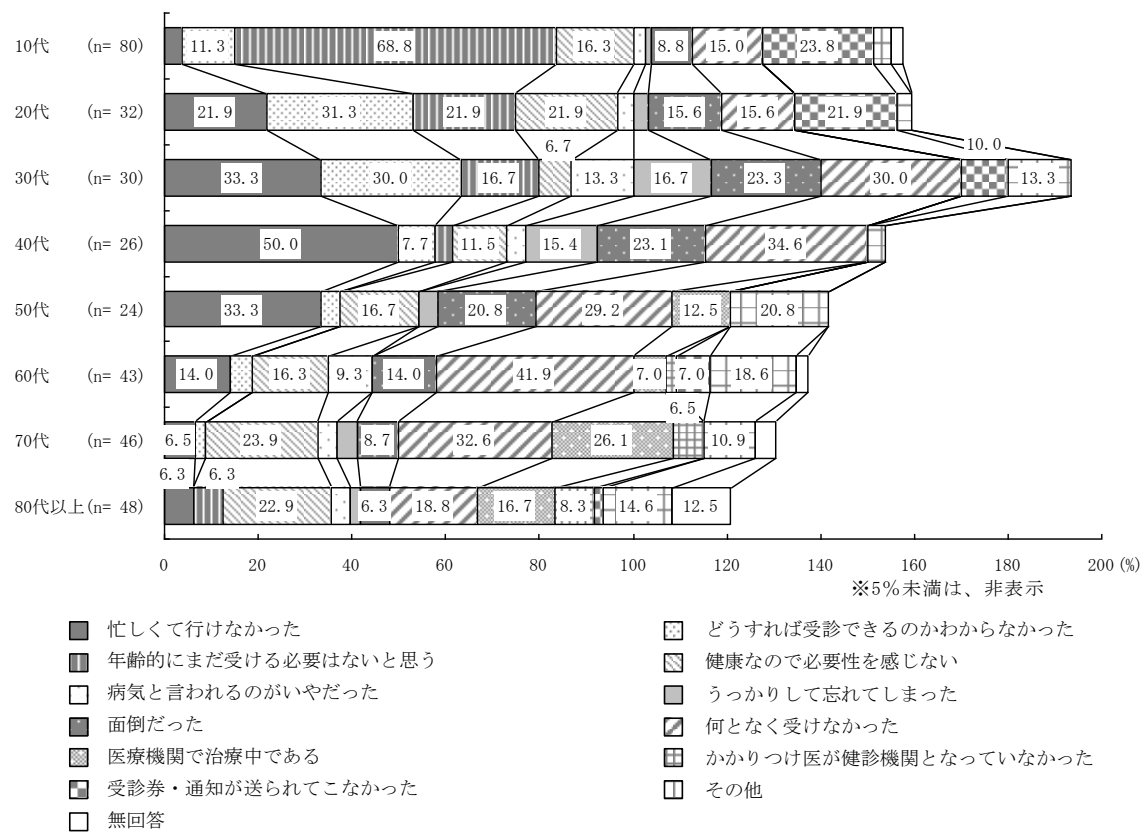


図 5-23 がん検診未受診理由（加入健康保険別）

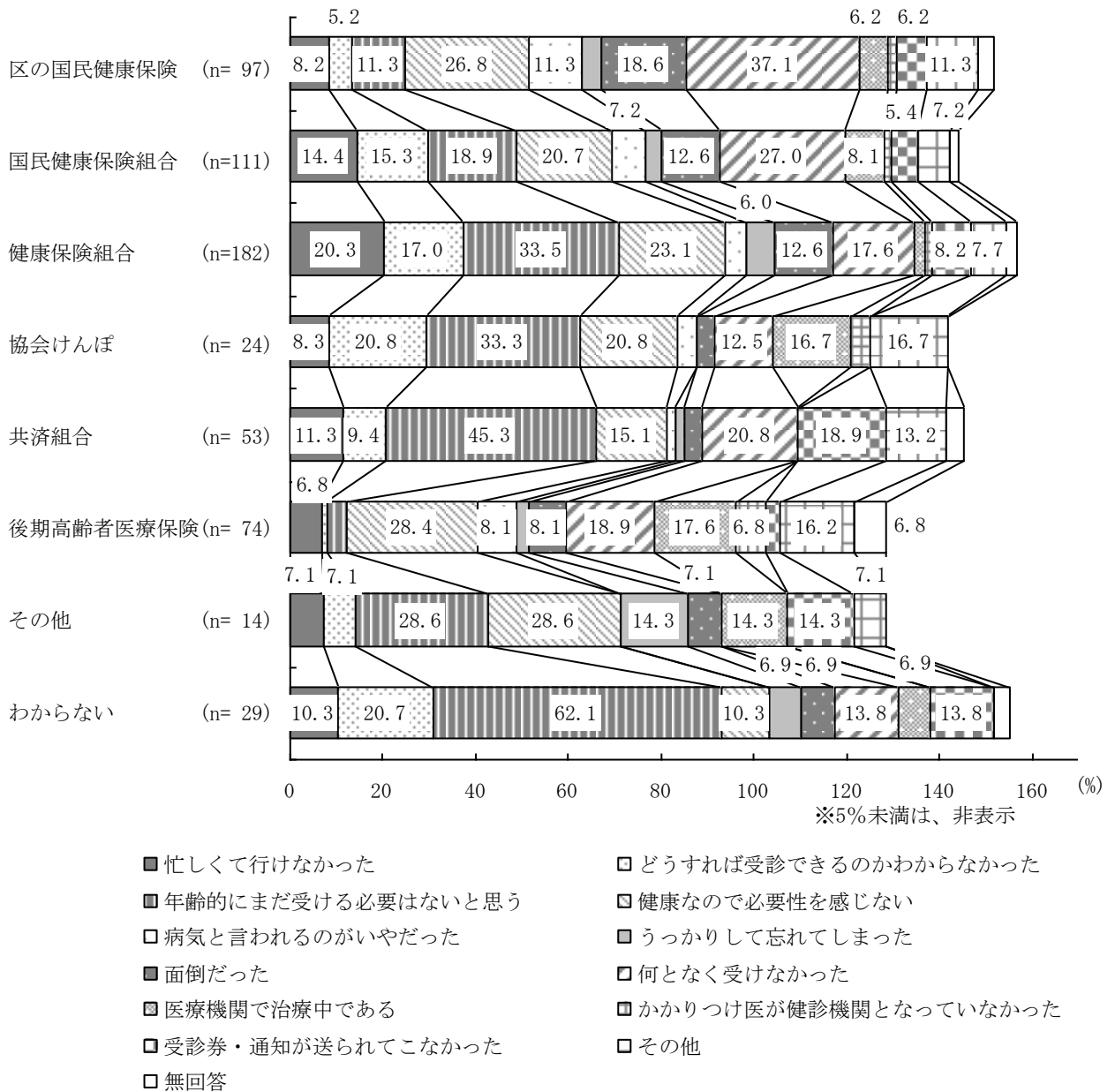


図 5-24 がん検診未受診理由（40 歳以上）

